

からはーい

ご挨拶

沖縄に着任して数ヶ月になりますが、いまだに自分の第一印象を忘れることなく色々な仕事に励んでおります。その第一印象とは「人」中心のもので、沖縄県民の奥深い思いやりや人間性であります。親身になって助言下さる皆様との交流を通して県民の心をより理解した上で日米のための外交に勤しむつもりであります。

この数ヶ月間、信頼関係を損なう痛ましい事件もありました。良き隣人であるべき米軍関係者の数名が犯罪を犯してしまいました。県民の心をより理解しようとしている私にとって、実に悲惨な出来事で、皆様と同様、犯罪には怒りと不安を感じます。捜査当局との全面協力、被害者への徹底した補償、加害者への適正な処罰を望み、対応してまいります。いかなる犯罪も許すべきではありません。安全な暮らし、不安のない生活を望むのは人間としての共通な願いでありましょう。自分といたしましては、これからも地域社会の安定を守る責任者の一人として、そして外交関係を強める観点からも、犯罪が犯されないような努力を皆様と共にしていくつもりであります。

さて、事件など、暗い面がメディアに目立つこの頃であります。それほど報道されない積極的な人間交流の場が沢山ある中で、私の最近見た一例を取り上げましょう。11月17日の嘉手納基地におけるスペシャル・オリンピックであります。参加された日本人の選手は実に900人、その殆どすべてが沖縄の方です。車椅子でのダンスといった楽しい活動や競争や絵の展示を中心に素晴らしい一日を過ごしました。選手の笑顔には障害が全くありませんでした。その笑顔を見て、何度も感動いたしました。選手の家族、先生、友達ばかりでは

なく、米軍関係者のボランティアで成り立つオリンピックは十三年目を迎えました。選手一人につき、最低二人のボランティアがお共をするという原則で、実に二千名以上の米軍人ボランティアが、大雨が降りしきる寒い中ずぶ濡れになって、一生懸命走る選手を激励し援助していました。それは心の通う人間交流そのものでした。喜び溢れる一日の終わりに、オリンピックの聖火が消されるまで、ずっと盛り上がっていました。参加なさった人なら忘れることのない思い出でありましょう。

我々の人生は人間ベースで成り立つものです。良き隣人でなければなりません。自分の選択で間違った判断をして人に迷惑をかけた時には、反省をして行動を正さなければならないのは当然の義務であります。と同時に、他人の喜びを高めたり作り出したりするのも、人間の生きる上での責務でありましょう。その責務を果たそうとする人を支援するのも、我々の人生の楽しみであります。もっと、嘉手納スペシャル・オリンピックで味わうような喜びを分かち合いたいものです。正に沖縄県民の喜べる行事でありますので、来年も楽しみに交流の輪を広げましょう。

実は、私は着任早々から県民の理解を得ようと努めてきた中で、沖縄の歴史に関する認識や米国とのつながりをより深く勉強する決心をいたしました。普天間飛行場の歴史を知るには、やはり戦前の姿を理解することが必要で、宜野湾の博物館でその以前の姿を見させていただきました。戦争の凄まじさをより意識するために、沖縄県平和祈念資料館をゆっくり見てまわりました。沖縄県の有識者の方々にもお会いして、県民の歴史認識を勉強させて

[続き](#)



マグルビー総領事

目次:

[ご挨拶](#) 1-2

[再生可能エネルギー
によるハワイと沖縄の
連携](#) 2-3

[障がい者のための
カテナ・スペシャル・
オリンピック](#) 3

[領事館情報](#) 4

いただきました。県立博物館も案内していただきながら、自分で再度訪問して「Okinawaから沖縄へ」という意義深い特別展を何時間もかけて考察いたしました。(米国人にとって心の痛む展示もありましたが、率直にその意義を考えました。)今後も沖縄に関する勉強を絶えずやっています。そして、それは県民の皆様のご指導の

と、より深く理解できるものと思われます。

米国人は沖縄県民の良き隣人でありたいと思い、努力をしていくつもりです。そのために、後述となりましたが、皆様のご支援ご指導をいただけたらと思う次第であります。どうか、これからもよろしく願います。そして、ゆたしくうにげーさびら。

[1ページ目に戻る](#)

再生可能エネルギーによるハワイと沖縄の連携

現在の国際社会に於いて、国境を越えて問題解決を図ることが必要不可欠であります。世界が直面する課題が山積している中で、我々がお互いに力を合わせて、努力しなくてはより良い社会の実現は期待できません。近年、沖縄とハワイの間で行われている、重要なエネルギーの分野での協力の一面をご紹介します。

2010年6月に、米エネルギー省、経済産業省、ハワイ州、沖縄県の4者が、沖縄-ハワイ間での覚書「クリーン・省エネルギー開発と展開に関するハワイ州・沖縄県のパートナーシップ」に署名し、島嶼地域における持続可能なクリーンエネルギーモデルを世界に発信することになりました。2010年8月22日から9月4日にかけて日米両国の政府関係者及び専門家が沖縄及びハワイを訪問し、関連する施設、企業関係者及び研究者との協議を行うとともに、タスクフォース会合を実施し、省エネルギービル、スマートグリッド、再生可能エネルギー、及び人材交流の4分野を協力分野として定め、それぞれの分野に協力を遂行するための作業部会を設置し、2011年6月の第3回タスクフォース会合では、それぞれの作業部会のワークプログラムが完成しました。

このワークプログラムに沿って、沖縄では、(1) 省エネルギー専門家による沖縄県糸満市役所及びホノルル市のハワイ州政府ビルのエネルギー診断を実施、平成24年3月28日に沖縄で開催された第4回タスクフォース会合を期に行われたパネルディ

スカッションでは、日米の専門家や地元沖縄の研究者や建築家とビルの運営や省エネルギーについての意見交換を行いました。(2) 沖縄県とハワイ州の人材交流を深耕するために2011年9月に沖縄県職員3名がハワイ州を訪問、ハワイでの亜熱帯地域における省エネビルのガイドライン策定について学びました。(3) 民間レベルの交流では、沖縄エネテック社及びハワイ電力社間で持続的な人材交流を推進している他、米エネルギー省、オークリッジ国立研究所、サウザン大学は、ホノルル市プナホウミドルスクール及び沖縄県琉球大学附属中学校の中学生のために、省エネルギービル技術に関するオンライン・カリキュラムを開発。2012年2月に、生徒は全4回中3回のコースを受講し、それぞれのアイディアで、その地域の気候風土にあった省エネ住宅をデザインしました。2012年3月30日(日本時間)にはスカイプを使った合同ライブ授業で、英語でお互いに作品の説明をしたり交流を楽しみました。また、(4) 海洋深層水を活用した産業振興を図っている沖縄県久米島町とハワイ州ハワイ郡は、2010年11月17日に久米島町で開催された第1回海洋エネルギーワークショップをきっかけに2011年9月に姉妹都市提携を結び、教育、文化、経済発展への協力がますます深まっています。

2012年9月11-12日には、OTEC (海洋温度差発電) プロジェクトを立ち上げるための技術、資金、環境などの課題を明らかにし解決するための第3回海洋


[続き](#)



ホノルル市プナホウミドルスクールとの合同ライブ授業に参加した琉球大学附属中学校の生徒さんの様子



久米島・ハワイ郡姉妹都市提携1周年記念・歓迎交流会で甕に「友好の泡盛」を注ぐマット・オカーナー 主席領事



エネルギーワークショップが久米島で開催され日米の企業や研究者、沖縄県、ハワイ郡の担当者らがそれぞれ再生可能エネルギーの取組状況について報告。ハワイ州で先行してOTECの実証実験を行っているNELHA（ハワイ州自然エネルギー研究所）での研究成果や久米島で建設されているOTECの実証実験施設の取組状況についてもお互いに報告しました。当館、マット・オカーナー首席領事も米国における再生可能エネルギーの取組状況について報告した他、姉妹都市提携1周年記念歓迎

交流会では、「海洋深層水を利用した新エネルギーの開発・研究を目指した共同研究プロジェクトや新産業創出につながる経済的交流を在沖米国総領事館としても応援していきたい。」と挨拶しました。

両地域の海洋資源利用の取り組みや再生可能エネルギーの普及・促進が、同様な環境にある太平洋島嶼国の先導的なモデルとして、さまざまな課題の解決に貢献することを願っています。

[1ページ目に戻る](#)

障がい者のためのカデナ・スペシャル・オリンピックス（広報より）

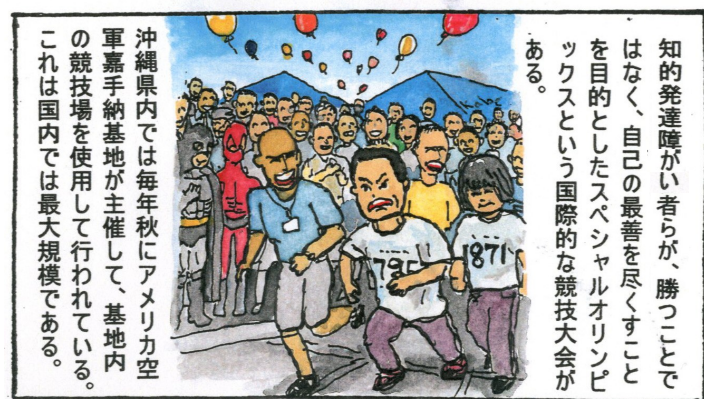
11月17日（土）にカデナ基地は900名もの特別な選手達を招いて第13回目となるカデナ・スペシャル・オリンピックスを開催しました。大雨が降ってきたにも関わらず、多数の米軍人がボランティアとして参加しました。選手、そのご家族、コーチおよびその他のサポーターの全員で開会式、パフォーマンス、無料で提供されたバーベキューランチと競技を楽しみました。選手のうち99%は地元沖縄からの参加でした。

昨年、私はカデナ・スペシャル・オリンピックスに“ハガー”（抱擁人）として参加しました。ハガーとは、主に米軍人からなるボランティアのことで、選手とペアになり、選手が競技に間に合うように誘導したり、昼食を一緒に食べたり、そして競技中は自分が支援する選手を応援する役割を担います。今年、私は観戦者として参加したので、競技を全て観ることが出来ました。全四軍（陸軍、海兵隊、海軍そして空軍）から参加している若い軍人達が選手と手と手をとって50メートル走でゴールを目指して走っている様子は本当に感動的でした。言葉は全く障害になっておらず、選手とハガー達は表情やジェスチャーを使ってコミュニケーションをとっていました。観戦中に偶然、海軍の隊長の隣に座ったのですが、彼はその日60名もの部下をボランティ

アとして参加させるために、キャンプシールズから引率してきたと話していました。彼らの部隊はたった6ヶ月の任期で沖縄に派遣されていたのですが、受け入れてくれている地域への貢献をしたいという思いから参加を決めたとのことでした。

NHKではカデナ・スペシャル・オリンピックスについて、県民を喜ばせるこの良いニュースとしてその日に取り上げてくれましたが、より多くの県民に積極的に報道されれば感動を与えるニュースだと思います。数日後には新聞にも写真つきで載った記事を見て、改めてその素晴らしい日を心の中で楽しみました。参加した選手達やそのご家族は数千名もの沖縄の方々からなり、彼らもおそらくその報道を喜んで見たことでしょう。特別支援を必要とする選手達はこのイベントのために一生懸命、練習を重ねてきており、その努力は地元の社会に広く知られる価値があると思います。来年はカデナ・スペシャル・オリンピックスがより多くの人に喜びを与えるイベントとなるように期待したいです。

[1ページ目に戻る](#)



領事館情報

英語で朝活

毎月第2、第4火曜日にスターバックス浦添パークレーズコート店にて午前7時半より1時間、英会話を楽しみませんか？英語を練習したい方はぜひご参加下さい。

スコア! サイエンスinオキナワ2013

在沖米国総領事館では沖縄科学技術大学院大学(OIST)との共催、沖縄県、沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校理科教育研究協議会の後援で平成25年3月16日に、県内の高校生を対象にした科学フェア「スコア! サイエンスinオキナワ2013:起業のための研究能力」で開催いたします。このイベントは、日頃の科学的研究や開発の成果をいかに日常生活の中に役立てていくか、という起業家精神を培うことを目的とした全く新しい取り組みです。詳細については、下記Webサイトでご確認ください。

沖縄科学技術大学院大学
<https://groups.oist.jp/score>

[1ページ目に戻る](#)



在沖縄米国総領事館

〒901-2104 沖縄県浦添市当山2-1-1
<http://japanese.naha.usconsulate.gov/>

在沖米総領事館

@USConsulateNaha